

# 道徳科学習指導案

令和2年10月 第2学年 指導者 武尾 暁

1 主題名 法やきまりの意義 内容項目 C- (10) 遵法精神、公德心

2 教材名 「オーストリアのマス川」(出典:あすを生きる2 日本文教出版) 中学校第2学年・2学期

## 3 主題設定の理由

### (1) ねらいとする道徳的価値について

きまりとは公德心に支えられるものであり、それを守ることにより、自分自身や他者の権利が尊重され、社会全体に安定が生まれる。だが中学生の年代では、そのきまりを他律的なものと捉え、自分たちを拘束するものとして反発する思いが出てくる。それぞれのきまりがなぜ存在するのかを考えることを通して、そのきまりがあることにより自分の生活や社会の秩序が保たれていることに気付き、それらを維持するためにも、法やきまりを自律的に守り、よりよい社会を実現させようという態度を育てたい。

### (2) 生徒の実態について

多くの生徒は、学校内の多くのきまりの存在については理解している。しかし、きまりについて不満をもつ生徒や、守ることのできない生徒がいる。また、その意義については十分に理解せず、「きまりだから」という理由で守っている生徒も少なくない。そこできまりにはそれぞれ意義があり、それを守ることによって、自分たちの生活の安定があるのだということに気付くことで、自律的に守り、秩序を保とうという態度を育てたい。

### (3) 教材について

本教材では、釣りが趣味である主人公が、釣り捕っていい魚の大きさや解禁日に厳格な制限のあるオーストリアの川で初釣りをする。主人公は、2キロはあろうという大物を釣り上げるが、解禁日前だったため、釣り上げた魚をためらいながらも放流する。このきまりを守らなくてはいけないという意識と、自分の欲求に伴う人間的な弱さによって生まれる葛藤に共感させつつ、最終的にはきまりを守り、魚を放流する主人公の行動から、きまりの意義について理解し、自分の弱さに負けず秩序を守るためにも法やきまりを守ろうという態度を育てたい。

## 4 指導方針

### ○本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつために

- ・「なぜあるのだろうか」と疑問に思ったことのあるきまり」があるか質問することで、資料に近い経験を想起させ、生徒と資料をつなぎ、内容項目を自分事として考えられるようにする。

### ○教材を通して、道徳的価値の追求を行うために

- ・道徳的価値の追求に費やす時間を十分に確保するために資料については事前に配付し、問いを設けておき、それを確認する形で資料の要点をつかむ。
- ・主人公の大物を手にしたときの喜びや、逃がしたくないという思いにより強く共感できるよう、資料は前半部分と後半部分に分けて配付する。
- ・生徒が自分の行動を振り返り、自分が主人公の立場だったらどうするかを考える際に、授業支援ソフトを使用し、自分の立場を可視化する活動を行う。また、それを互いに見合い、共感した考えを選ぶことにより、道徳的価値に対する人間的な弱さに気付いたり、多面的・多角的な考えに触れたりできるようにする。

### ○道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考えるために

- ・導入で出た「なぜあるのだろうか」と疑問に思ったことのあるきまり」がある理由について、もう一度考えることで、内容項目を実生活と関連付けて考えられるようにする。

## 5 本時の展開

### (1) ねらい

自分の心の弱さを感じながらも、釣り上げた魚を放流する主人公の心情を基に「きまりは何のためにあるのか」を考える活動を通して、きまりの意義について考え、それを守ることによって秩序を保とうという態度を育てる。

### (2) 準備

教師：ワークシート、大型モニター、タブレット PC

### (3) 展開（○発問 ◎中心発問 ◇補助発問）

学習活動と発問	時間	予想される児童生徒の反応	支援及び指導上の留意点 ◎研究上の手立て
<p>1 本時で扱う道徳的価値について問題意識をもつ。</p> <p>○「なぜあるのだろうか」と疑問に思ったことのあるきまりはありますか。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある。</li> <li>・廊下を走ってはいけない。</li> <li>・自転車の通行場所。</li> <li>・髪型についての校則。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料に近い体験を想起させることで、本時で扱う道徳的価値を自分事として考えられるようにする。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">めあて：きまりは何のためにあるのか考えよう。</div>			
<p>2 教科書の教材文の要点をつかむ。</p> <p>○大物のグレーリングを釣り上げたときの主人公はどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>○まだ解禁日でないと気が付いたときはどんな気持ちでしょうか。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うれしい。</li> <li>・来てよかった。</li> <li>・まずい。</li> <li>・逃がさないといけない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料は前半部分を事前に配付し、読ませておく。</li> <li>・この後の交流の場面で、主人公の逃がしたくないという思いに共感できるよう、釣りに対する思いや釣り上げた時の心情について確認する。</li> <li>・資料の後半部分を配付し、主人公が解禁日でないと気が付いた部分のみを範読し、その時の心情について確認する。</li> </ul>
<p>3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。</p> <p>○あなたが主人公の立場だったらどうしますか。またそれはなぜですか。</p>	7分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○放流する。</li> <li>・今日が解禁日ではないということは分かっていたことなので、納得して逃がすしかないと思うから。</li> <li>・ルールを無視していたら罪</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎授業支援ソフトを用いて、自分の立場と理由とをモニター上のグラフに投影することにより、立場を視覚的に捉えられるようにする。それぞれの立場がはっきりと分かるようにグラフは二項対立の形にする。</li> </ul>

		<p>悪感が残ってしまうので放流する。</p> <p>○放流しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きまりがあるのは分かっているけれど、大物を釣り上げることができて、とてもうれしいので、放流しないと思う。</li> <li>・誰も見ていないかもしれないし、たった一日だけなので内緒にすればいいんじゃないかと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記入後にそれぞれの立場についての考えを確認し、全体で共有する。</li> </ul>
<p>◇自分が共感した考えはどれですか。またそれはなぜですか。</p>	8分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・僕は「放流する」という考えだったが、○○さんの「たった一日だけ」という考えに共感した。一日だけならばいいかなという考えもあると思う。</li> <li>・私は「放流しない」という考えだったが、○○くんの「前からそういうきまりがあることを知っていたから放流する」という考えに共感した。知っていたのであれば無視はできないと思う。</li> </ul>	<p>◎グラフを基に自分が共感した他の生徒の意見をコピーし、自分のシートに貼り付けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「放流しない」という気持ちに共感した考えを取り上げることにより、きまりに対しての人間的な弱さに気付けるようにする。</li> <li>・「放流する」という気持ちに共感した考えを取り上げることにより、道徳的価値について多面的・多角的に考えられるようにする。</li> </ul>
<p>◎主人公が釣れた大物を放ったのはなぜだと思いますか。</p> <p>◇この川のきまりはなぜあるのでしょうか。</p>	15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きまりは守らなくてはいけないから。</li> <li>・罪悪感を残したくないから。</li> <li>・このきまりを守らなかったら、何かよくないことが起こるのかもしれないな。</li> <li>・守らないと魚の数が減ってしまうかもしれない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の「僕」が釣った魚を放流する部分のみ範読し、「僕」の心情について考える。</li> <li>・多くの生徒から「きまりだから守る」という考えが出てくるのが予想されるので、補助発問でこの川のきまりの意義についてより詳しく考えられるようにする。</li> <li>・授業支援ソフトに各自の考えを赤色の付箋に記入させ、それを基に4人グループで話し合う。</li> <li>・話し合いを経て考えに変容があった場合は、付箋に書いてある内容を修正し、貼り付ける。</li> </ul>
<p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習の</p>			

<p>めあてについてももう一度考える。</p> <p>○「なぜあるのだろうか」と思ったきまりは何のためにあるのでしょうか。</p> <p>◇どんな考えがありますか。</p>	<p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廊下を走ってはいけないというルールは走っていることによって誰かにぶつかってしまうと危ないからあるのかもしれないな。</li> <li>・2列走行をしていて怒られたことがあったけれど、車から見たら危なかったのかな。</li> <li>・どの考えも誰かを守るためにあるのかもしれない。</li> <li>・髪型や服装についてはなぜなのか分からないときもある。</li> <li>・中にはよく分からないものもあるな。</li> </ul>	<p>◎導入で出た「なぜあるのだろうか」と疑問に思ったことのあるきまりがある理由について考えたことを授業支援ソフトに赤色の付箋で記入する。</p> <p>◎書き込まれた付箋を比較した後、再び同じ発問をすることで、実生活に生きる道徳的価値の理解をより深められるようにする。</p>
<p>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。</p> <p>○授業を振り返って書きましよう。</p>	<p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まではなんとなくきまりを守っていたけど、そのきまりがある理由も考えられるようにしたい。</li> <li>・きまりを守らないこともあったが、それを守らないことで誰かを傷つけているかもしれないので気を付けたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を振り返って、今後の自分の生活にどう生かしていきたいか考えられるようにする。</li> </ul>

(4) 評価の視点

○中心発問では、きまりの意義について多面的・多角的な見方へと発展させることができているか。

○本時の振り返りをする場面で、きまりの意義について授業内で考えたことを自分の実生活との関わりの中で深めることができているか。

(5) 板書計画

